

所属・職位	医学部看護学科実践看護学講座・教授	
氏名	三重野 英子 (Mieno Eiko)	
取得学位	博士 (保健学)、広島大学、2004年3月	
SDGs目標	 	

研究分野	老年看護学、リハビリテーション看護
研究キーワード	認知症ケア、緩和ケア
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ●一般病院における非がん後期高齢者の緩和ケアプログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 老衰や心不全、認知症等の非がん後期高齢者の緩和ケアプログラムの開発にむけて、事例研究に取り組む。 ●認知症専門外来における看護実践モデルの開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症専門外来での看護実践をモデル化するために、初診・再診での診療過程に沿った看護ケアの内容を記述した。今後、認知症専門外来の看護師等を対象にした看護ケアの実際に関する調査や外来での検証を行い、看護実践モデルを提示する。 ●認知症高齢者の薬物療法の援助に関する実態調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師が認知症高齢者に適切・安全に薬物療法を援助できるための教育プログラムを検討することを目的に、看護師、介護家族、医師、薬剤師（病院・薬局）を対象に、看護師の薬物療法の援助に関する質問紙調査を行った。 ●特定機能病院・一般病院における認知症高齢者の看護のモデル化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における認知症看護のモデル化を目指し、特定機能病院や一般病院の看護師を対象とした看護の実際と課題に関する質問紙調査、入院経験がある認知症高齢者の家族やグループホーム職員を対象とした病院看護の評価に関する質問紙調査を行った。 ・ これらの調査結果に基づき「入院時に認知症の行動・心理症状やせん妄を予測し、予防的に介入するための認知症看護プログラム」を作成し、その実行可能性について事例研究を行った。 ●短期入所を利用する認知症高齢者とその家族に対するケアに関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期入所のケアのモデル化を目指し、まず、短期入所施設のケア責任者を対象にケアの質評価に関する質問紙調査を行った。次いで、短期入所利用者4名を対象に入所から退所までに行われたケアとその結果を参与観察と面接により記述し、施設適応を促進するケア要素を抽出した。
研究業績・アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> ●著書 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年、最新老年看護学、第4版、日本看護協会出版会。 ・ 2018年、系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学、第9版、医学書院。 ●論文・研究発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017年、医師からみた看護師が行う認知症高齢者の薬物療法の援助の実際と課題、第37回日本看護科学学会学術集会。 ・ 2013年、一般病院・診療所における認知症看護プログラムの開発～認知症看護プログラムの実行可能性の検討～、日本老年看護学会第18回学術集会。 ・ 2011年、A survey on practical nursing care for dementia patients admitted to general hospitals, 26th International Conference of Alzheimer's Disease International (トロント)。 ・ 2009年、家族による一般病院・診療所での認知症の人と家族への看護に対する評価、日本認知症ケア学会第10回大会。 ・ 2003年、施設種別による短期入所のケアの質に関する研究、日本老年看護学会誌。 ・ 2005年、介護老人福祉施設の看護師が行うEnd-of-Life Careの実際、日本老年看護学会誌。